



連石 武則
水曜会
(35分)

活力と魅力に満ちた輝くまちをつくるためには

問 ①人口減少対策は。②若者対策は。

答 ①人口減少は、市全体の課題であり、第五次総合計画では市内を6つの地域生活圏に区分し、各地域の個性と魅力を生かしたまちづくりを進める。福山版ネウボ



能宗 正洋
誠友会
(40分)

新たな視点による観光振興策は

問 観光振興、魅力向上策として、本市の観光対象場所に工夫したスタンプを置き、コース達成者に地産品等をプレゼントする、スタンプラリーの導入は。

答 複数の観光資源を巡るスタンプラリーは観光地等を来訪するきっかけをつくり、今まで知らな

ラの取り組みや、女性が活躍できる施策などを力強く推進し、人口減少の抑制に取り組む。

②若者や女性が元気に行き交う姿は未来への希望であり、平成29年度から若い女性に職業観の醸成や本市の魅力を知ってもらうため（仮称）駅前女子カフェを設置し集う場の提供を行う。

また、学生と市内企業の若手職員との交流会や、成長が見込まれるソフト産業の誘致など、若者の地元定着や市外からの呼び込みに向けた取り組みをさらに充実させていく。

かった観光資源に偶然出会えるという効果も期待できる。

平成28年度、歴史などのテーマに沿って観光資源をつなぐスタンプラリー機能を搭載した観光アプリの開発に取り組んでいるところである。

コースを問わず周遊箇所数に応じて特典を付与するアイデアについては、観光客数の増加に一定の効果があると考えられ、戦略的な情報発信の観点も踏まえ、今後、検討していきたいと考えている。



村井 明美
日本共産党
(35分)

児童生徒の心に寄り添う指導を

問 市は中学生の生徒指導に「ゼロトランス」を取り入れ厳しい指導を行い、中には生徒指導の在り方を契機に不登校になる等の事例も生まれている。2017年2月、県教育委員会は生徒指導資料「児童生徒の心に寄り添う指導の在り方につ



岡崎 正淳
無所属
(30分)

立地適正化計画基本方針は

問 ①40年後の人口分布を地理情報システムによる独自手法を採用して分析した理由は。②居住誘導区域や都市機能誘導区域を定める市街化区域に対し

市街化区域以外では疎外感を感じる懸念があるが、認識は。③市民との合意形成の基本的な

いて」を通知した。全教職員への周知徹底と、各学校の「生徒指導規程」の改善は。

答 2月10日、資料を活用し校内研修を実施するなど教職員の指導力向上、組織的な生徒指導体制や教育相談体制の充実を図るよう通知。また児童生徒一人一人の可能性を信じ、成長の過程などを多面的、多角的に理解しながら支援する教育活動を行うよう指導した。生徒指導規程の見直しは学校の実態や子どもを取り巻く社会環境を踏まえ行うよう各学校に通知した。

考え方は。

答 ①商圏人口が維持される地域は施設立地が促進され、利便性を求めた人が流入すると考え、こうした経済活動に着目した独自処理で商圏人口分布図を作成した。②市街化区域以外では、地域に合った生活サービス機能を確保し、交通ネットワークの中に組み込む中で、市民の皆さまが安心で、安全に暮らせるよう取り組む。③2018年度から2年間をかけて地域説明会等により、市民合意形成を図る中で成案化につなげる。